

1) 序文 私達 研究会は、2006年の1月より活動を開始し、もう5年以上も、旧広島市民球場と跡地周辺の計画に関して、様々な市民グループとともに、シンポジウム、アンケート、対話の集まり、案の展示、ワークショップなど各種イベントを催し、多くの市民と対話し、意見交換(ネット上も含む)をしてきました。本案は、それらをふまえた上で、当研究会が整理し、まとめたものです。

2) 本案を支える5本の柱

●第1の柱:「平和公園～中央公園周辺全体を貫く、地に根付いたコンセプトを敷く」

「ひろしまー歴史と川の道」 **Hiroshima Historiver Road**  
通称: 広島歴史リバーロード(← History + River) (図1参照)

平和公園から中央公園までを一体として考え、そこにある広島の歴史を物語るものたちとそれらと平行に流れる川、その両者とともにある空間を、新しくできる JR 白島新駅から平和公園へとつながる「ひろしまー歴史と川の道」と称し、そのアイデンティティを大切に、都心の計画を行う。

そしてその川の流れは、瀬戸内の海へと注がれていき、宮島や江田島などたくさんの島々と海の歴史へとつながっていく。歴史とともに川の流れが海へと注ぎ、島々の歴史とリンクしていく。私たちがともに、こういった大きく豊かなイメージをもって、これからの広島の未来像を築いていくことができれば、素晴らしい未来が開けるのではないのでしょうか。

●第2の柱:「旧広島市民球場の精神と役割を、中央公園の方向性とする」  
これまでの市民との対話で出てきた中央公園に求めるものと平和公園との比較をまとめ(表1参照)では、中央公園には平和公園とは異なった機能が求められており、私達は、議論の中で最も多く絡んできた旧広島市民球場を中央公園の方向性の象徴とし、その精神と役割を、中央公園の方向性とししました。

●第3の柱:「中央公園は、市民の築いた理念を基軸に計画を行う」  
(旧)広島市民球場フォーラムの「球場のキモチと方向性」、広島文化会議準備会の「明日の広場」。市民より出ているこれらの理念を基軸に計画を行う。このうちの、ワークショップを催して一般市民とともに構築された「球場のキモチと方向性」の成果は非常に素晴らしいので、特に重きをおきました。

●第4の柱:「計画は、市民の意見が反映され議論を経て生まれたものとし、今後もそうあり続けるものとする」 本案は、1) 序文の通りの経過を経ている案です。

●第5の柱:「中央公園は、都心全体の関係から考える」(図2参照)  
図2中の1～11の各要素を円環にとらえ、それぞれを活かせる連携を行う(ソフト、ハードにて)。

3) 中央公園はどうなって欲しいか。→以下の様になって欲しい。

「中央公園に刻まれた、この地の歴史や市民の想いと出会いながら、世界中からのたくさんの人達とともに、市民が主役となって、平和を願い、未来と世界へ希望をもって羽ばたく緑豊かな場」

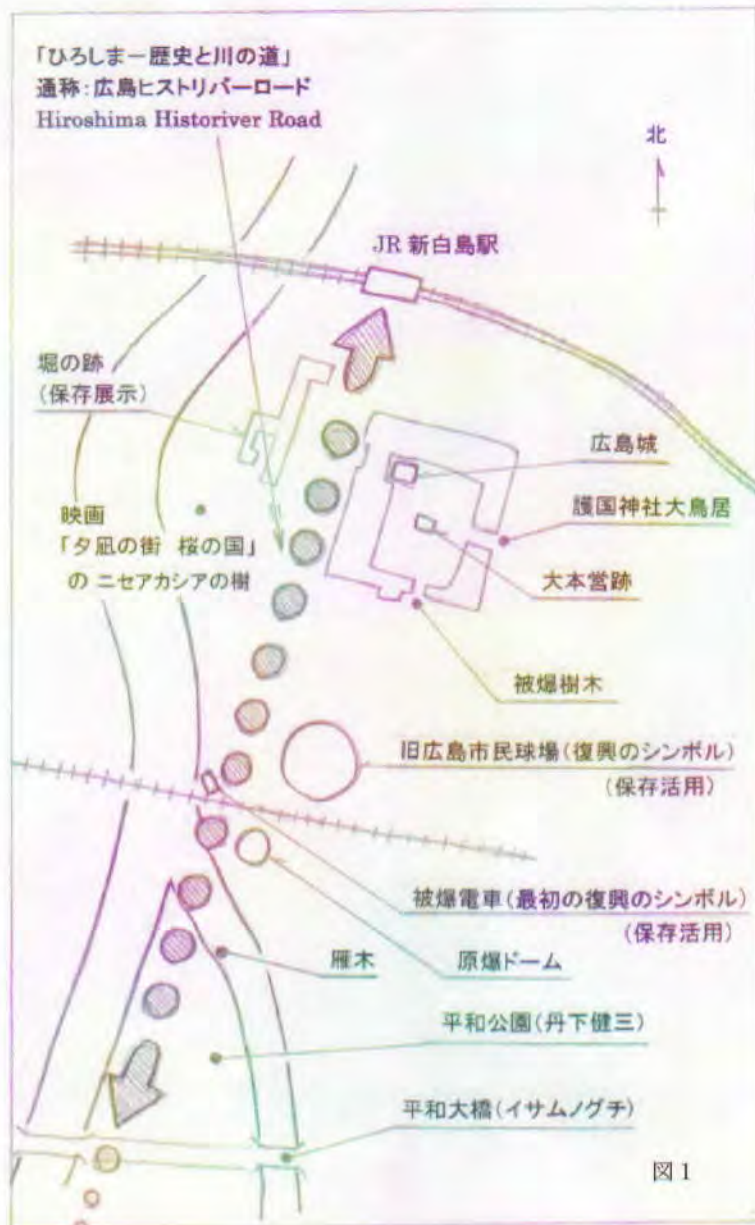
(誰かがドーンと恣意的に決めてしまうのではなく、市民の意見と議論を通じてネットワーク状に徐々に成長して行って欲しい。)

4) 本案の概要

本案は、前項2)の5本の柱をふまえ、前項3)を実現するための案です。未来への伝言板、歴史を物語る要素、世界中からの人々の想い、川と夕風、緑や虫や鳥たち、未来を切り開く情報、などが、中央公園全体に点在し、ネットワークを形成して存在している。それらがきっかけとなり、市民の手によって、時代にあった本当に必要とされるものが形成されて成長していく。そのための「場」の提案です。種をまいて、それを実らせるための場(土壌)をつくりました。それが中央公園のあるべき姿であると考えます。

5) 各構成要素の説明(図3以降参照)

A. 未来への伝言板: 被爆者と子供たちによって創られた、未来の人たちへのメッセージ(伝言板)を展示する。展示場所は、旧広島市民球場の復元された玄関ファサードの裏面(図3、4参照)。多くなれば、そこから外へ展開していく。被爆者が残してくれたそれらの伝言は、被爆体験の記録とは異なるもので、例えば70年ないし80年生きてこられたお1人お1人のそれぞれの人生をふまえ、未来の人たちへの、道の先に光がみえるような、前向きな希望あるメッセージが残されている。被爆体験の記録は<過去>ですが、このたびの「未来への伝言板」は、<未来への方向性>を持つものです。



| 平和公園  | 中央公園   |
|---|--|
| <貧の世界遺産><br>(被爆の惨劇を世界に訴える)                                      | <市民の希望の象徴><br>(市民の希望を未来に伝える)   |
| 原爆ドーム   | 復興のシンボル<br>旧広島市民球場   |
| 被爆<br>祈りの空間<br>静<br>軸線、集約的<br>インプット(出力)<br>上、国家、首長、トップから<br>過去の | 復興<br>希望ある表現と発信<br>動、賑わい、歓声、元気<br>ネットワーク、拡散<br>アウトプット(表出)<br>下、市民から<br>未来へ |
| 方向性の象徴<br>→<br>この流れこそが<br>ヒロシマの物語                               |  |

表1



それらは、メッセージということであれば、絵や写真でも可。また、彼らと学生数人が組んで製作することも有り。すでに亡くなられた方のご遺族の希望がある場合は、その方の残した過去の文章や絵などをメッセージとしてもよい。陶板などにして展示。

例えば300年後、私たちはもちろん、被爆二世も三世もこの世にはいない。しかしこの「未来への伝言板」はきっと、300年後の人たちにも勇気を与え、平和への道しるべとして存在していることでしょう。

未来へ向けたヒロシマからの真のメッセージは、被爆者一人一人の人生を通して生まれたそれぞれの言葉が集まって、それが総体化して初めて見えてくるものだと思います。

また、被爆者とともに創ってくれるこれからの未来を担う子供たちは、白紙のなかに、希望ある彼らなりの未来像を描いてくれることでしょう。

このアイデアは、被爆者の方とともに考えたもので、現在子供達の絵が何枚か集まっています(写真1)。しかし、被爆者の方々はすでにご高齢で時間がありません。市や県やマスコミ等の大きな力を是非ともお借りできればと思います。

### B. 未来への伝言シード(種)

未来への伝言板の数が多くなった場合で、中央公園全体に小さな単位で展示していく。それは様々な情報や機能とともに、ネットワーク状に展開していく。未来への伝言板、その場所の過去の説明、その場所の今後の提案、様々な意見や表現、情報端末、蛇口、椅子、太陽電池付き屋根、滑り台、ブランコ、広場や音楽堂、レンタル自転車場など様々な機能の付いた様々な形式で、そこから増築進展していくものとする(図8参照)。それら個々のシード(種)は、市民からアイデアを募集して各所にまいていく。

<例>

・未来への伝言シード27: 数枚の未来への伝言板とともに、広島に寄せられた折り鶴を、循環・再生させるためのイベントの提案が掲げられている。そのイベントの最後は、火を本川の水で消すことを鎮魂としており、それは川沿いに設置されている。

・未来への伝言シード49: 予定候補地に、数枚の未来への伝言板とともに、三矢ボールパークのための具体的な提案が掲示されている。

### C. 球場の保存について(図3, 図5参照)

旧広島市民球場の外野ライトスタンドと三塁側内野スタンドが残されており、玄関ファサードは復元する。内野スタンドには復興資料館、復興文学館などが入っている。ライトスタンドの選手のロッカールームは、カープ資料館とし、ブルペンでは、投球の体験ができる。分割して置いてある津田プレートの柱はもとに戻し、津田プレートの複製を貼るか、無しで説明板を貼る。座席は、段ボール製座布団を50円程度で貸し出すか、座布団持参を習慣づける。照明棟は4基とも残し、夜間でのイベントもできるようにする。レフトスタンドは開放し、6mの高さに円弧の梁が飛んでおり(梁脇に歩廊付き、柱は7mピッチ)それを利用して、防球ネットが張れる(カーテンかシャッター形式)。常時は防球ネットはなく解放されている。重要→「全体として、球場のスタンドによって閉じないように、川との連動を考えて川方向(西)に空間が広く開放されている。」全長にネットを張れば中で様々なスポーツが出来るようになる。例えば、草野球、カープのOB戦、サンフレッチェの紅白戦、ラグビー、ゲートボール大会、ビーチバレー、テニス、フットサル、簡単なキャッチボールや子ども教室からピースカップなどの大会まで可能。外野席を円形観客席にすれば、音楽イベントや映像鑑賞が可能。またこの周辺は、イベント特区とする。

外野の円形の石積みは珍しくもあり魅力的で、広島城の石垣や、雁木の石積みとの関係で見てもおもしろい。また、電車通りに面したスタンドの外壁側では、朝市も催される。



図2



図3



D. 市民球場記念ホール(屋根付広場): 中央公園での活動の拠点機能を担う空間(図6参照)

壁のない大屋根で覆われた空間。その屋根の形式は、大阪駅の大屋根の様に、屋根から昼間は照明不要な程度の明るさの光が入ってくる。外に面しては、太陽光発電パネルが設けられている。または、半透過製の太陽発電フィルムを全面に貼ってもよい。平面的には30m×30mから45m×45m程度。イベント、演劇、コンサート、様々な表現、オープンな会議、ウォーキングイベントのスタートやゴールとして。

雨や雪や夏の強烈な日差しを気にせずに行き来出来る。今後パソコンや映写機、繊細な楽器を使うことが多くなってくるでしょうから。また、椅子や机が沢山あり、休憩機能も備わる。

さらに、常設舞台と、舞台裏があり常時使える。主に神楽のベース基地として機能し、中国地方全域からのどこの神楽団が、平和公園を訪れる世界中からの観光客をいつも魅了している。



図5

図5は広島市のホームページからの画像を加工・別表現

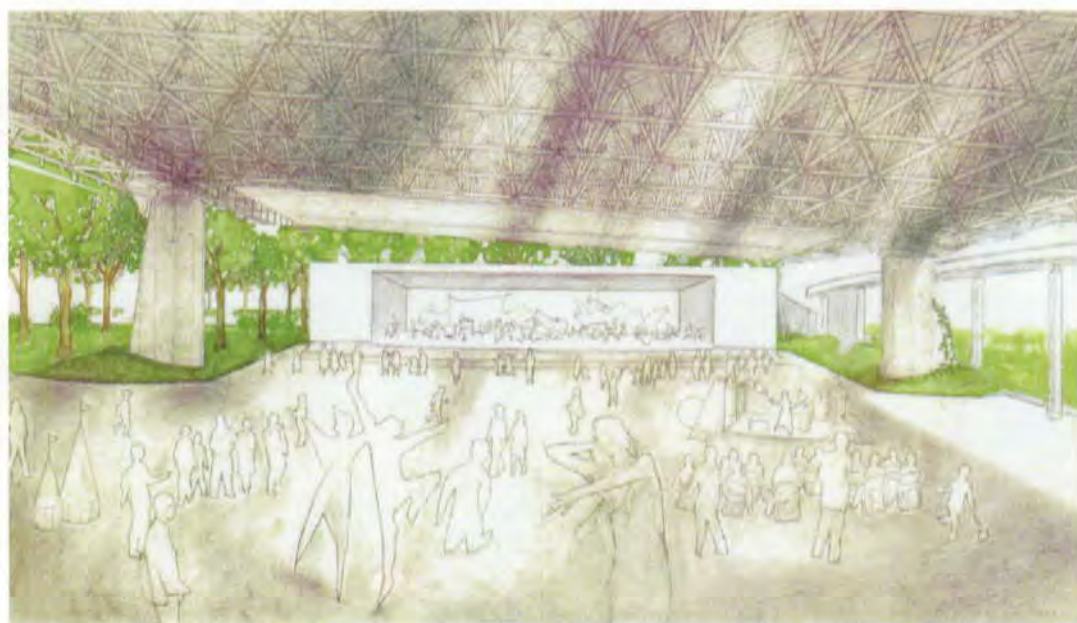


図6  
市民球場  
記念ホール

E. 被爆電車の展示「とこしえの停留場」

被爆3日後に復活して動き始め、被災した人々を乗せて焼け野原の中を走り続け、惨状の中、人々に生きる希望を与えた最初の復興のシンボルを、保存・展示し、実物を通して、その物語を後世に伝える。そこには、女性の運転手や車掌が頑張っていたヒロシマにとって大切な物語もありました。このアイデアは、女学生として運転中に被爆された被爆者の方とも意見交換しながら進めてきました。



図4：未来への伝言板

F. 商工会議所と文化施設

これは、プロジェクト9提案の「旧広島市民球場から始める広島」をベースとしています。青少年センター、こども文化科学館(プラネタリウムは除く)、中央図書館が統合され複合文化施設1として、商工会議所と2階部分でつながっている。両建物の2階はピロティの大空間としてつながっている。それは、武道場の屋上とブリッジでつながり、回遊性を高めている。そこに収まらなかった機能は、複合文化施設2として、中央図書館跡に設ける。

商工会議所棟は、現在までの計画案に対して、電車通りに面しての間口を5mほど短くし、建築面積を20%程度減らす。西面外壁をもう少し東側によせることで、その分東側の客席スタンドを多く設ける。

また、文化施設を統合することで、コストを減らし、コンパクトに移動できる。建物を集約して減った敷地分、より多くの木々を植えて魅力的な緑豊かな空間にする。

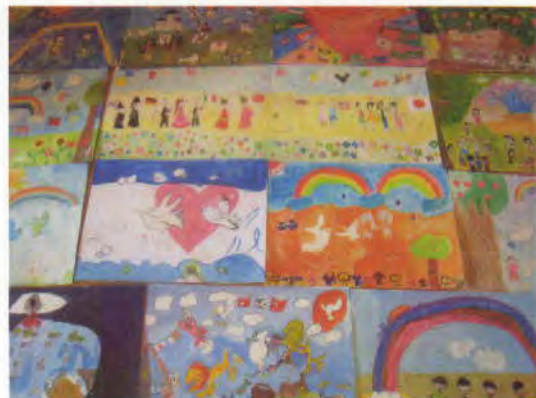


写真1：未来への伝言板—こどもの絵(谷根千こどもアトリエのこども達の作品)



G. 城南通りから基町周辺について

基町アパートの跡地周辺の再開発としては、広島城と絡めたコンセプトを展開する。毛利元就の「三本の矢」の話からきている「3+フレッチェ(矢)」、サンフレッチェの専用スタジアムを中心とした様々なスポーツ機能のあるボールパーク「三矢ボールパーク」をつくる。

カーブは鯉城からきているので、広島城をキーワードに、東西に関連性が生まれる。そして、その下にある広島城の堀を見せた空間(図1参照)も絡めて設ける。

三人の兄弟が力を合わせて道を切り開く。まさに中央公園にふさわしいコンセプトで、広島駅がカーブなら、新白島駅がサンフレッチェとなり、非常に都心が活性化されていく。また、城南通り道路を地下道路にし、地上を車で分断されることのない連続生のある一体の公園とする。広電白島線は、JR 新白島駅へつなげる。



図7：被爆電車の展示「とこしえの停留場」

H. スケジュール

これら、前述までの内容の実現を、2050年を目標とする。そして現在からの20年を中央公園前期とし、主に、旧広島市民球場周辺と本川沿い、それら周辺の文化施設の整備を行う。そこからさらに20年を中央公園後期として、基町、広島城、白島のエリアを、これも川と絡めて整備していく。現在までに市民の意見や案が出て議論されているところは、前期内で建設していき、それ以外の未決定は、未来への伝言シードにより、提案として種をまいて、その場に投げかけておく。

I. ヒロシマの樹(図8)

軸線から解放されて、市民が主役となって、枝がネットワークを作りながら天へ向かってのびていく。様々に葉も増えていき、実もなることもある。そんな樹を「ヒロシマの樹」とよぶことにします。

J. その他の施設

- ・ 大学間大学は、各大学間共通の講義室、大教室を中央公園のどこか(複合文化施設か川沿い)に設ける。
- ・ ハノーバー子ども広場は、大型遊具がおいてある子どものための広場で、ハノーバー市とともにリニューアルを検討する。
- ・ 軍都資料室: 軍都であったことの資料が展示されている資料室。軍都に関係のある場所に設置。
- ・ 西練兵場慰霊碑: イベントで賑わい楽しむ前に、まず、その地で起きたことを想い、祈ることからはじめるためのもの。
- ・ 屋台ストリート: 電車通りからハノーバー子ども広場までの道の両脇に、夜屋台が並ぶ。
- ・ レストハウスは、球場の南西に、球場に埋め込まれた形で在ってもよいとする(図5)。

5) その他のソフト提案、ソフト展開について: 機会あれば次回とします。

6) 広島平和記念都市建設法について

広島平和記念都市建設法の説明には、「この法律は、広島市を恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として建設することを目的とする」とあります。そのように象徴を前面にもって来ると、高い塔や、作家による強いデザインのオブジェ、折り鶴といったところに陥ってしまいます。ラビレット公園の様に、市民とかみ合っていない例からも学ぶべきです。もちろん結果的に、理想の象徴となっても良いのですが、「理想の象徴として建設することを目的」とすべきかどうかは別問題とします。

また、佐々木禎子は千羽を超えても折り続けたのはなぜでしょうか? 彼女が家族に心配され止められても折りつづけたのはなぜでしょうか。彼女は、折り鶴の形、残された物ではなく(折り鶴を全て残したり、膨大な物量を見せることでもない)、平和を願い、そして命の大切さを考えながら折り続けるその継続していく行為そのものが大切だと、私達に教えてくれたのだと思います。それは、誠実に実現しようとし続けなければならない私達へと伝わってきます。よって、中央公園におきましては、以下のように解釈します。

「恒久の平和を、世界中のたくさんの人々とともに、誠実に実現しようとし続ける市民の場となることを目的とする」

7) おわりに

本案を支える5本の柱、そこから導き出されることの1つとして、旧広島市民球場の歴史を最も良い形で未来へ伝えなければならないということがあります。建物だけでなくあの場合自体も特殊で、原爆が落とされるきっかけとなった軍都の主要機能である西練兵場であり、ほとんど爆心地であり、復興のシンボルもありました(3枚のレイヤー)。よって、「球場のどこをどのように残し、活用すべきか」を、しっかりと歴史を踏まえた計画全体の見直しの中で検討されて当然ですので、広島市は市議会とともにきちんと民意を汲んでそれを誠実に実現すべきです。よって本案は、そう行い、とする案とします。

原爆ドームは世界遺産ですが、旧広島市民球場は、生きた市民遺産だからです。

ヒロシマの「復興」は、「被爆」、「放射能の問題」の問題を抱えて今へと至りますが、これらの3つのキーワードは、東日本大震災や「フクシマ」と無関係と言えるでしょうか。現地では、津波に耐えた一本の木を残そうと、地元市民が立ち上がっています。私達の「復興」のシンボル旧広島市民球場を、市民が納得のいく形で残すべきです。旧広島市民球場の在り方、扱われ方は、中央公園を計画する上での「起点」と位置づけます。それが市民の納得のいく計画がなされてはじめて中央公園の理念が成り立つからです。

中央公園は平和公園とは異なり、市民が種を蒔いて水をやり、ともに育っていき、足下の地を想いながら、市民が主役となって羽ばたいていく。そんなところになって欲しい。

「市民に、翼をください。」



図8：未来への伝言シード(種)



図9：ヒロシマの樹